



沖縄住民30万人が収容所に・・・作られた基地

NHKスペシャル「一九四五―一九四六 沖縄 空白の一年」は八月二〇日放送された。一九四五年上陸した米軍は「戦争から隔離し保護する」として、住民の九割、三十万人を狭い収容所に、飢えてやせ衰えるような食事で収容。一方、住民がいけない間に、集落や学校、役場等を壊して飛行場を作った。

宜野湾市の玉那覇祐正さん83歳は「終戦から二年、収容所から戻ってきた故里は普天間基地に変わっていた。きれいな町があったのがぱっと見たら何もない。二千五百坪の農地で芋や大豆、サトウキビを栽培していたのに生活の糧を失った」と云う。

米軍で働く以外にない

一九四六年、米軍は無料支給の食料を有償に変更。そして、米軍で雇用することに。田畑を奪われ、生活の糧を失った人々は米軍で働く以外なかった。

ハーグ陸戦条約では

NHKは触れなかったが、ハーグ陸戦条約

は八八九九年及び一九〇七年に日米共に参加して結ばれた。それには占領地の住民の私有財産を奪ってはならないとある。普天間基地はこの条約に反して作られた。ここに基地問題の原点がある。

元NHK経営委員の百田尚樹氏は「普天間基地は田んぼの中にあつた。周りには何も無い。そこに商売になるということで住みだした」と発言。とんでもない事実の歪曲。沖縄県民への侮辱ではないか？ 皆さんはどう思われますか？

青森の朝市

青森県青森市



旅行に出たときの楽しみは、朝飯前の町の散歩。

早朝とあって、どの店も閉まっている。そのシャッターの前に段ボールを並べた朝市に出会った。

話を聞くと、個人客も歓迎だが、大部分のお客は、食堂などのお店とか。

色々注文し、最後に「ささげ三キロ」と云う客に「あいよ」との答。客はそのまま、他所に。お店の人、段ボール二、三箱にメロンとかササゲ、キャベツなどを纏め、手押し車で出かけた。顔なしで、届け先など、何も聞かないでも分かっているのだ。

店の主人は折りたたみの机にノートを広げ電卓をたたいている。「〇×商店、ささげ三キロ」などと記帳していた。

平和美術展などで八月十四、二十一日はお休みしました